
創造の使い魔

糞眼鏡次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
創造の使い魔

【Nコード】
N38660

【作者名】
糞眼鏡次郎

【あらすじ】
錬成＋トリスティン＋モブ貴族。アンチ女王様。オリ主が色々頑張ってくれます。

プロローグ（前書き）

始めまして。糞眼鏡次郎と申す輩です。

ノリで投稿しましたがもはや三番煎じ臭いです。

とりあえず完結まで頑張ろうと思います。よろしくおながいします。

（ ; , ）

プロローグ

「世界構成に必要な要素って何か知ってるか？」

「はあ？なにいつてんだお前」

ここは色のない、例えるならば白い空間

俺は目の前にいる、白髪で顎や耳に赤いピアスを付けおまけにアルミfoilに包まれたパイプをふかしてるオサレでヤヴァイ男に、そう言った。

とか言われても大半が理解に苦しむと思うので説明すると

まず、俺の名前は、折崎廉徹。おりさきれんとつ 極普通の永遠の中学（本当は高校生だ）。

で、目の前で小難しい単語並べてんのは、自称天上人。なんかこう、色んな人に謝って欲しい格好をしている。

それで、何でそんなやつが俺の目の前にいるのかといえば

「答えはうんこだ。二次元なら絵。三次元なら粘土や自分で出せばいい。要は“そこ” 具現出来れば糞でも何でもいいのさ。」

「ワケわかんねえ…俺はうんこと一緒にてか？ざけんな。」

まあ、さっきからこんな感じだ。話を聞くにはどうやら俺は死んだらしい

俺が学校から帰っているといきなりトラックがつつこんできて、俺を綺麗に跳ね飛ばした。で、気付いたらここにいて、天上人（自称）にこんな意味不明な話を聞かされている。

冗談じゃない。なぜこんなデタラメな場所に呼び出された上、こんな会話をしなきゃならん。そういうのは、どっかの偉人や宗教の

専門家とやってろよ。

なんてことをごちゃごちゃ言いあつて数分経つていて…今に至る

「正しくはないが、間違つてもいい。で、うんこを整えるのが俺らの仕事つて訳だ」

「…小学生かお前は。それで？俺がここにいるのとは何の関係があるんだ？」

「あると言えばあるな。お前はもう前のうんこから綻びた存在。今じゃうんこの悪臭のようなもんだからな」

「おい、その汚い例えやめろや。で、俺はどうなるんだよ？消されるのか？」

よく分からんが、この状況はマズい。俺もしかして消滅するのか

「いや。うんこがはみ出たら汚いじゃん？だから欠けてるうんこに嵌め直す」

「だから俺をうんこみたいに言うな！？」

こいつ、人の事をなんだと思つてやがる！？

「というわけだから、今からお前を違うんこに飛ばす。なあに、安心しろ。前よりも面白い世界だから」

「誰がいつそこ気にした！？ テメエ、いい加減に」

と、俺が言い終わらない内に、いきなり俺の身体が透けてきた。
いや、いやいや！？　ちよつと待てよ！

「おいコラ勝手に飛ばすな！」

「あ、分かった！　なんだ新しい友達が出来るか心配してんのか？
よし大サービスだ、なんか能力やるから」

「んなこと一言も言ってねーーーーーーー！」

俺の苦情も虚しく、やがて俺の身体は完全に消えた。
あの糞野郎憶えてろよ！　いつかゼツターぶっ殺す！

目が覚めると、そこは見覚えのない豪華な部屋だった。

「……知らない天井だ」

いや、なんか　もう天井っていうレベルじゃないけど。装飾すこ
いなあ

……じゃなくて！

「つーか、本格的にどこだここ？」

俺は眩き、ベッドから降りる。っていつか物凄い広さだけど！？
教室ぐらいありそう

どうしたもんかとぼーっとしていると、部屋にあった机に、一枚の

手紙を発見した。

「なんだこりゃ？」

俺がその手紙を開くと、

『よお、廉徹。まずは息子が朝立ってところか？ まあ、解ってる
とは思うが、俺だ。で、早速なんだが説明するぞ。』

お前が今いるのは、さっきもいったように異世界だ。だが、安心
しろ。形は一緒だ。二足歩行だし。兎に角、お前にはそこで第二の
ライフ（つつても失った時間戻らんが）を過ごしてもらおう。ああ、
その部屋はある学院の寮室だから。お前の身体だが、適当に精神崩
壊さした人間の身体を乗っ取ったから、今日から貴族な？ よかつ
たな。お前人生勝ち組だから。

で、最後にお楽しみみの、能力の説明だ。ずばり、「鋼の錬金術師」
にでてくる錬金術だ。両手合わせて、イメージしながら物質に当て
たら、練成できる。まあ、世界構成が違うから制約は存在するがな
……まあ自分でガンバレ。

んゝ、こんなもんだな。じゃあ、がんばって友達作れよ

ちなみに、この手紙は数分後、燃えて完全に消滅するぜ（はあと）

「……………」

言葉も出なかった。なんかもう、ツツコミ所がありすぎて。
そうやって、しばし啞然としていると、

ガチャッ

室内にメイドさんが入ってきた

「……なんでしょうか」

「あつ。スティックス様でよろしいでしょうか？」

「そつすけど、あんた誰？」

「もも、申し訳ございません。わ、私は、この学院のメイドとして雇われているシエスタです。あ、あの、先程通りかった所にこの部屋から凄い悲鳴が聞こえたので……」

シエスタさんの話を聞くと、どうやら俺は、断末魔みたいな悲鳴を上げていたらしい。

凄い恥ずかしい。もしかして精神崩壊させたのか？あの糞野郎他にも色々聞いてみると、どうやら明日から授業が始まるらしい。シエスタさんには悪夢を見たと言っただけでなんとかごまかして出て行って貰った。

「明日からつつても、制服とか、知識とか問題がないのか」

俺が机の隣に目を向けると、制服がハンガーで吊ってあった。頭で思い出そうとすると、前の俺の記憶や知識が思い出せるようになってた。

「前の俺、キュルケって人が好きだったのか……なんかゴメン」

「さて……しかたねえ。とりあえず明日から頑張るか」

俺は一つため息をついて、そう決意した。
それにしても……、

「シエスタとかキュルケって、なーんか聞いた事あるような……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3866o/>

創造の使い魔

2010年10月18日16時29分発行